

2023年7月14日
神戸新聞

酒米の新品種栽培を学ぶ

専門家から篠山東雲高生2年



実習田で酒米の「幼穂」の調べ方を教わる生徒たち＝篠山東雲高校

丹波篠山

酒米栽培に取り組む篠山東雲高校(丹波篠山市福住)地域農業科の2年生11人が、県立農林水産技術総合センター農業技術センター酒米試験地(加東市)の主任

研究員・さんから、酒米の新品種「Hyogo Sake 85」の栽培管理

について指導を受けた。

同高は地元の鳳鳴酒造(丹波篠山市貞服町)と連携し、2018年から日本

酒の原料となる酒米の栽培から加工、販売までを学ぶ「日本酒プロジェクト」に

取り組んでいる。校内の実

習田では、酒米「五百萬石」と「85」を計約130アール栽培している。「85」は県が育成し、21年に品種登録された。コメの中心の「心白」が大きく、

純米酒造りに向いている。

さんは講義で、温暖

化による夏場の暑さにも強く、倒れにくいといった

「85」の特徴などを説明。

実習田では、青々とした葉を抜き、「幼穂」の長さを

測って、生育状況を調査し

た。いまは「田干し」の時

期で、稲は背丈70～80センチ

生育は順調。20日ごろには

出穂する見込みとどう。